

2 . 経済データ

マクロ経済で習うこと

中心はGDP

(支出の内訳)

GDP = 消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 在庫投資 + 公共投資 + 政府支出 + 輸出 - 輸入

(時系列)

GDP = 経済成長 + 景気循環

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

経済データ (詳しくは、2年からの「データ読み解く日本経済」で)

GDP (国内総生産)

日本で生産された量全体を把握。戦後からほぼ一貫して増加している。

60年代から70年代前半 ( )

74年 ( )

80年 ( )

90年 ( )

失業率 (働きたい人のうち、失業している割合)

失業率 = ( ) / ( )

自然失業率 経済の好況不況にかかわらず生じる失業率

消費者物価指数 (消費者が買うさまざまな商品の平均的な価格)

基準年を2005年にした数字にしている。物価が継続的に上がることをインフレーション、下がることをデフレーション (デフレ) という。

株価（日経平均）(225社の株価を平均したもの)

株価は、ある企業の会社の価値を示す。代表的な会社 225 社の株価について平均したもの。

### 金利

- ・金利は、お金を借りると払い、お金を預けるともらえる。
- ・短期は 1 年未満、長期とは 1 年以上のこと。グラフは、コールレートと公社債インデックス（国債、地方債、社債などを買った時の平均的な金利）を表す。
- ・コールレートは翌日物が中心。銀行間でやりとりする（インターバンク市場）。
- ・金利は、景気が良いと高くなり、悪いと低くなる。

また、金利を上げることで、景気の過熱を防いだり、下げることで景気を良くしようとする。（金融政策）

### マネーサプライ

日本に出回っている現金と預金の量。マネタリストが重視。

現金通貨、預金通貨から構成される。

### 為替レート

通貨を交換する時の比率。

1 ドル 100 円 200 円は円高？円安？

### ストックとフロー

経済データは、ストックのデータとフローのデータに分類される。

フロー 一定期間内の量

ストック ある時点で存在する量（使ってなくなるものはストックにならない）

フロー	ストック
1 年間の預金量	貯金の総額
GDP（ある期間生産量）	国富（生産したものの合計）
通貨発行量	マネーサプライ（お金の存在量）
所得	資産
消費（ある期間に使った量）	
投資（＃）	資本ストック（これまでの投資を合計）



## 実質と名目の違い

名目は「外見」、実質は「中身」を表す。

名目GDP = 生産量 × 価格

実質GDP = 名目GDP / GDPデフレーター × 100

GDPデフレーターは、物価指数の一種で、基準年を100として表す。

ある国ではリンゴしか生産していなかったとする。その生産量、価格は表の右側に記されている。このとき、名目GDP、実質GDPはいくらになるか？

## 生産量は変わらず、価格だけ上がった場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデ フレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				10	150

## 生産量が増えて、価格が変わらない場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデ フレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				15	100

## 生産量が増えて、価格も上がった場合

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデ フレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000			100	10	100
2001				15	150